

第76回 防災カフェ（Web）を開催しました。



大学生が考える「防災」

～聖泉大学学生地域連携交流委員会の活動～

日時：2023年2月28日(火) 17時30分～19時00分

ゲスト： 聖泉大学学生地域連携交流委員会の学生の皆さん

小川 葵さん 寺川 慧さん 益田 匠人さん

ファシリテーター： 間 文彦 さん（聖泉大学地域連携交流センター長）

聖泉大学の山口万由子さんに進行のお手伝いもしていただきました。

聖泉大学学生地域連携交流委員会は、2017年度からさまざまな防災活動に参加し、地域の防災力向上や防災啓発活動に取り組んでこられました。今年度の活動を振り返っていただきながら、「防災」について大学生と一緒に考えました。

聖泉大学について

間さん 聖泉大学は、人間学部、看護学部、大学院看護学研究科、別科助産専攻を設置し、男女約500名が学んでいます。本学の理念として人間理解と地域貢献を掲げています。私はこれまで、地域連携交流センター長として、安心・安全なまちづくりに力を注いできました。



学生の皆さんとファシリテーターの間さん

大学は彦根市南部の肥田町という田園地帯の自然豊かな学びの環境の中に位置しています。JR稲枝駅から徒歩15分、スクールバスで5分という距離にあります。

学生地域連携交流委員会について

小川さん 大学の良いところは、生徒と教員との距離が近く、困ってことを気楽に相談することができるということです。

寺川さん 地域の方と関わる機会が多いところだと思います。

益田さん 看護学部での実習は様々な病院や施設で実習できるので、いろいろなことを体験したり見たりすることができるということです。

間さん 2015年に地域連携交流センター長に就任し、どのように地域の方に交流していけば良いかを模索する中で、彦根市が防災に関して学生とコラボレーションしたいという希望をお持ちだということを知り、アプローチしました。彦根市の消防本部の方と何度か話し合い、2017年に学生5名を中心に防災サポーターを大学の学園祭（万聖祭）当日に立ち上げました。2019年までは彦根市消防団の指導の下に消火活動訓練や災害訓練に参加しました。最初の5名は今では医療現場

で看護師として働いています。

地域連携交流センターは環境、健康支援、地域活性化、防災と消防という4つをテーマに、大学祭での活動と地域の様々な活動に参加する形で取り組んでいます。

寺川さん 2019年の活動を紹介します。彦根市消防団機能別分団に入団し、防災訓練や救急フェア、火災予防啓発活動などに参加しました。避難所の設営では、段ボールベッドや仮設トイレも設置しました。

山口さん 2020年度はびわこ東北部地域連携協議会とも共同して、更なる事業の発展を見込んでいましたが、新型コロナウイルスの感染が広がり、ほとんど活動ができませんでした。2021年度は規制も緩和されてきて、活動も再開できるようになりました。

益田さん 活動が再開されて、防災訓練や避難所設営訓練やHUGなどに参加し、ホースの使い方やロープの結び方も学びました。

小川さん 大学祭(万聖祭)のときにかまどベンチを紹介し、災害時にどのように使うのかを紹介しました。



間さん 今年度の活動について紹介します。5月に彦根市の消防団の入団式が行われ、機能別分団学生分団として5名が入団しました。11月には地域に向けた防災講座や12月の防災士のリカレント研修会、1月には彦根城で行われる出初め式に参加しました。

また、びわこ東北部地域連携交流として彦根と長浜の5つの大学がプラットフォームを形成して活動しています。長浜バイオ大学と聖泉大学の防災士を取得している6名の学生が集まり、「琵琶湖の大学生がつなげる防災活動」という名称の活動を立ち上げました。彦根の3大学と長浜のバイオ大学でスタートしましたが、県内に広げていきたいと考えています。大学生が防災で活躍できるメリットは、防災活動に若い人、女性の視点を入れることができることだと思います。

防災士を取得したきっかけ

小川さん 先生に進められたこともあります。近年災害が多くなってきて、自分たちが救助したり、応急手当をしなければならぬときに主体的に動けるようになりたいと考えたからです。

寺川さん 防災士の資格が大学で取れると聞いて気楽に参加しました。講義で様々な災害について専門的に学べて、離れて住んでいる友人が災害に遭遇ときに早目に避難するようにアドバイスもできました。

益田さん もともと興味はあったのですが、自宅も遠かったので、時間的、距離的に尻込みするところがあったのですが、声をかけてもらって結果的によかったです。

防災訓練や学園祭での活動

間さん 自助、共助はどういうことなのかということをも自分自身に問い直すことが大切であることに学生が活動を通して気付いてくれました。8月には彦根市内で大災害が起こったという設定で小学校や地域で防災訓練が行われ、小川さんと寺川さんが参加しました。

寺川さん 総務班で、若者、高齢者、外国籍の方、障害のある方が集まり、避難所のルールを考えました。避難所で少しでも快適に過ごし、トラブルを防ぐためにもルールは必要です。互いの価値

値観を理解したルール作りが大切であることを学びました。

小川さん 救護班の活動に参加しました。災害時に起こりやすい出血や骨折の応急処置や担架を使った搬送を体験しました。事前に体験しておくことで、いざという時に動けるようになります。地域の方と一緒に訓練することで対応できる人が増えると感じました。

間さん 10月の近畿府県合同防災訓練には、学生も機能別消防団の防災士として参加しました。

益田さん 1日目は土砂災害が発生した被災地を想定した訓練に参加しました。土砂災害で避難経路が途絶されて山奥から逃げるできない住民役をしました。2日目のビル倒壊現場での救助訓練ではビルの屋上で取り残された傷病者の役割をしました。救助隊が現場に到着するまでの途中の安全を確認するのに、時間を要しましたが、その間も『迎えに行きますから』という声掛けを絶やさずかけてもらいました。そのおかげで不安に駆られていましたが、安心することができました。



間さん 訓練の中で被災者になった時の気持ちを体験することは大切なことです。11月には大学祭には防災ブースで展示をしました。

益田さん 大学に設置されているかまどベンチを使ってお湯を沸かして、コーヒーを提供しました。大学内にかまどベンチがあることを地域の方に知っていただくことも目的の一つでした。

小川さん 自宅の近くでも注意してもらえるように、大学までの道筋や散歩される中での危険なところはどこかを教えていただき、大学周辺の地図にシールを貼って、自分たちでハザードマップをつくりました。また段ボールベッドをつくり、寝心地を体験していただき、災害時での必要性を理解してもらいました。

間さん 今年の2月には彦根市の火災防護訓練が行われ、機能別消防分団として参加しました。

小川さん 初期消火班に参加しました。火事の通報を受けて、消火器をもって火災現場に向かいました。しかし、現場には消火栓があったのですが、それを確認せずに消火器だけで消火しようとしてしまいました。消火栓の位置を確認することの重要性を学びました。

益田さん 避難誘導と救護班の活動に参加しました。救護班では、担架をもって火災現場に向かうという設定でしたが、狭い通路での方向転換、人を乗せているときの階段の降り方などを考える機会となりました。避難誘導では、逃げる方向が複数ある時の避難経路をどの方向に決めればよいかを即座に判断できませんでした。

普段からできること、心がけていること

寺川さん 災害時には、住民の方が最大限の力を発揮されることが重要なので、住民の一員として、地域防災に関心を持ち、イベントなどに積極的に参加していきたいと考えています。

間さん 聖泉大学の看護学部は看護師の資格を取りつつ、災害に備える資格を取れる大学にしたいと考えて、これからも地域連携に取り組んでいきたいと考えています。

参加者から質問をいただきました。その一部を紹介します。

問：地元や家庭で活動されていますか。

答：小川さん 家庭内で災害時どこに避難するか、お互いに連絡がとれるように双方向の連絡先を確認しています。

寺川さん 家庭での食料や水の補充を考えています。避難所を決めておいて、互いの連絡先も確認しています。祖父母宅は山の上にあるので、土砂災害も心配されるので、どこで寝ているかなどを共有していざという時にすぐに助け出せるようにしています。

問：防災活動にあまり関心がない方、一歩踏み出せない方にメッセージはありますか。

答：寺川さん 被災した時に、知識があるだけで自分を守り、家族や友人を守ることができるので、ぜひ学んでほしいです。

益田さん 災害が起こった時に、初動が早くなったり、正しく判断して行動できるので知識を身につけていただきたいと思います。

小川さん 水や保存食を備蓄する、家具の固定をするなど身近なこと簡単なことを、一步一步続けていけば防災に繋がると思います。

問：ちょっとした防災、日頃から少しずつできる防災で、何かおススメはありますか。

答：小川さん まず食料の備蓄だと思います。日数が少なくても良いので、家族分の食料の確保は小さな防災として大事だと思います。

寺川さん 自分が生活している地域ではどのような災害が起こるのかというリスクを調べてみるのだと思います。

問：学生地域連携交流委員会での活動で心に残っている活動と感想を教えてください。

答：益田さん どうして気付かなかったのだろうという気付きが大きかったのは、HUG という避難所運営ゲームに取り組んだときです。避難されてきた方をどう配置するか、持病のある方、性別や外国人の方への配慮の足りなさなど難しさを知ることができました。

聖泉大学学生地域連携交流委員会の学生の皆さん、間さん、進行のお手伝いをいただきました聖泉大学の山口さん、参加者の皆さん ありがとうございます。



ファシリテーター：間 文彦 さん